

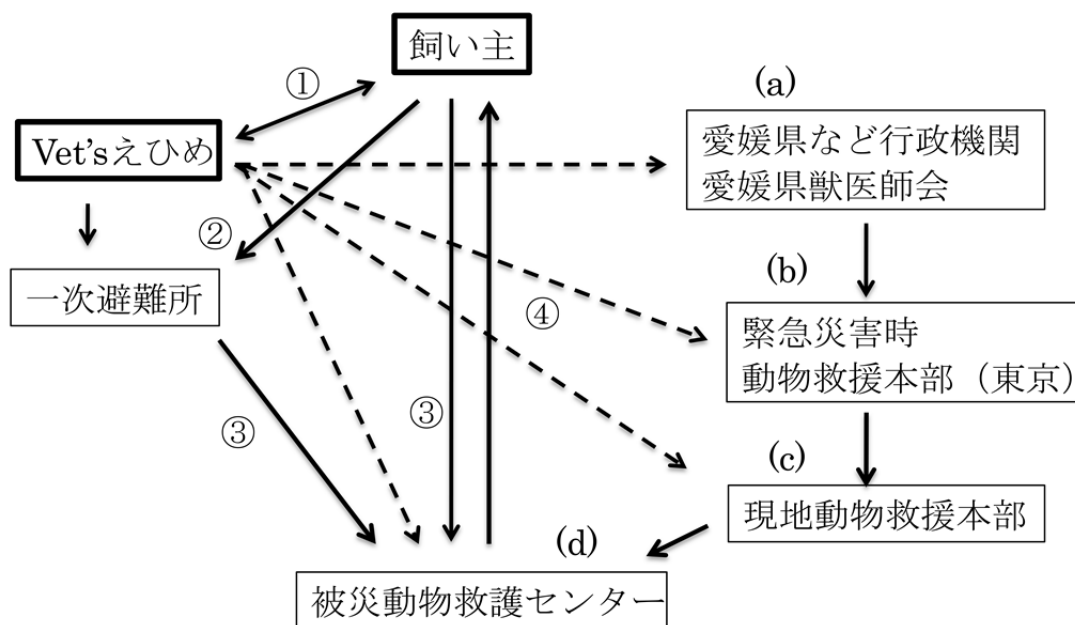
1. 避難時および避難事前準備に関する書類

- 1-1 避難時の動物救護組織について
- 1-2 飼い主さんの避難に関するところ構えと準備
- 1-3 飼い主さんの避難時の携帯物品リスト
- 1-4 放射能汚染が発生した場合の避難と対策
- 1-5 マイクロチップ埋め込みについて

災害発生時の動物救護体制について

災害が発生した場合、まず愛媛県などの行政機関 (a) が緊急災害時動物救援本部(b) (東京) に支援要請し、その後関連機関と連携して現地動物救援本部 (b) と被災地動物救護センター (d) が設置され、救護保護活動が開始されます。これまでの災害例では数日かかっています。「Vet's-えひめ」は、災害発生後すみやかに緊急時対応体制を確立、飼い主との対応 (①) を開始、一次避難所 (たとえば会員の病院など) ②で保護し、その後被災動物救護センター (シェルターなど) が設置された後に動物を移動して (③)、引き続き保護活動を継続します。

災害発生時の動物救護活動の組織図



原子力事故等によって環境の放射能汚染が発生した場合、公的機関の汚染情報によって、一次避難所、避難のタイミングや方法などを決めます。

飼い主さんの避難時のところがまえと準備

1 災害時には、動物と必ず一緒に避難することが原則。

これまでの自然災害時や東北大震災では、同行避難しなかった動物の多くが犠牲になっております。災害時には動物と一緒に避難するのが原則です。災害時には、できるだけすみやかに、保護活動や動物救護センター（シェルター）設置が開始されます。動物がいるため避難できないか、避難しない時には、「Vet's-えひめ」、「被災動物救護センター」、「地域動物救護本部」に連絡してください。

放射能汚染が発生した場合、汚染情報を確認して避難の是非を確認してください。汚染状況によっては、屋内退避も被ばくを避ける重要な手段になります。

2 動物の避難時の安全や保護の確保をしましょう。

- ① 避難時には動物をキャリーバッグや運搬ケージに入れるか、首輪やリードをつけましょう。
- ② 道路にはガラス破片などが散乱し、怪我をする可能性があります。足を靴下や布で保護することが大事です。また放射性物質の汚染防止も期待できます。
- ③ 放射能汚染が発生した場合、車で運ぶか、ケージをビニールなどで被い、放射性物質が体表面に付着することを避け、呼吸によって体内に入らないようにしましょう。

3 避難に備えて、以下のような準備をしておきましょう。

1) 動物について

- ① 狂犬病予防接種と登録（犬）、ワクチン接種、フィラリアの予防などをおきましょう。
- ② 動物の特徴がわかりやすい写真や家族と一緒に写真を用意しておきましょう。
できればマイクロチップの埋め込み（最も確実な身分証明書）をおきましょう。
- ③ 首輪やリードの装着になれるようにしておきましょう。
- ④ 乗車やケージに慣れる練習をしておきましょう。
- ⑤ 他の人や動物に慣れるようにところがけましょう。

2) 非常時に持ち出す物品は、1-3「避難時の携帯物品リスト」をご覧ください。

避難時の携帯物品リスト

フード (2~3 日分)	チェック
水 (2~3 日分)	
給仕給水容器	
首輪	
リード	
キャリーバッグ	
登録票、狂犬病予防注射票 (犬)	
バスタオル、遊び道具など (日常使用しているもの)	
写真 (全身、頭部、体表の特徴、家族同時など)	
かかりつけ病院と病名	
投薬中の薬 (袋も)	
性格やしつけなどのメモ	
足の保護用の布 (靴下)	

放射能汚染が発生した場合の避難と対策

原子力事故や放射線影響については、本会のホームページ「原子力事故時の避難：一般の方へ」をご覧ください。

- (1) 放射能汚染時の避難の判断基準は、空間線量率です。放射能汚染の分布情報を信頼できる機関から得ること。
- (2) 人も動物も一緒に行動するのが原則。
- (3) 環境汚染の拡散状況や放射性物質の種類によっては、避難のタイミングが異なり、屋内退避も有効な方法になります。屋外飼育している動物は屋内に退避させる。
- (4) 原子力事故で放射性物質が環境へ放出された場合、体外被ばくと内部被ばくを受けます。
- (5) 放射線被ばく線量は、できるだけ低く抑える。(少なくとも 1mSv/年以下)。基本的な考えは、汚染地域からできるだけすみやかに、遠くに避難する(外部被ばく防護)、防塵マスクなどで吸入摂取を防ぐ、汚染した可能性がある飲食物は摂取しない。(内部被ばく防護)
- (6) 被ばく時間を短く、放射性物質摂取を少なくするために、避難は窓を閉めた車で移動する。
- (7) 歩行で避難する場合には、動物の足などの外傷が起きないように注意を払う。動物に服やビニールを装着する。首輪やリードを付ける。
- (8) 動物の運搬ケージはビニール袋や(防塵)布などで被う。
- (9) 避難時の携帯品リストの物品を忘れずに。(日頃から準備しておく)
- (10) 万一汚染しても、除染ができます。

マイクロチップの埋め込みについて

マイクロチップとは、迷子、災害、盗難、事故などで、離ればなれになった時、犬猫の個体を識別できる**終身型の身分証明書**ですので、飼い主さんのところへ戻ってくる可能性が高くなります。

「動物の愛護及び管理に関する法律」(環境省)では、マイクロチップの装着が推奨されています。愛媛県はワースト3位、東京は1位、阪神淡路大震災があった兵庫県は第2位。

マイクロチップとは、世界で唯一の15桁の番号が記録されている円筒形の電子標識器具(直径2mm, 8-12mm程度)です。番号は、動物ID普及推進会議(AIPO:アイポ)に登録されます。アイポとは、マイクロチップの普及推進とデータ管理を行っている組織です。問い合わせ先アイポ事務局:(社)日本動物保護管理協会 Tel:03-3475-1695

マイクロチップは獣医師が動物の決まった部位(背側頸部や左側の皮下)に専用の注射器で注入します。したがって、体から脱落しません。

マイクロチップの装着(注入)時の痛みはないか、あっても通常の注射程度です。また生体適合ガラスで被われていますので、副作用はほとんどありません。

マイクロチップの番号は、動物病院、動物保護センター、保健所が備えている専用リーダーで読み取り、アイポに照会すれば、所有者がわかります。番号照会は、動物病院、自治体、獣医師会の獣医師や職員のみができます。

マイクロチップの犬や猫の装着費用は動物病院によって異なりますが、アイポ登録費も含めて数千円程度です。「Vet's-えひめ」でもマイクロチップ装着を推奨しています。

たとえば、避妊や去勢手術時に装着すると動物の負担軽減となり、時期(年齢)的にも良い機会でしょう。